

# 豊田合成の取引先初の展示会

## 得意技術隠さず紹介



自社の技術や強みを説明する豊田合成の取引先企業の担当者ら。愛知県稲沢市の豊田合成北島技術センターで

豊田合成の取引先企業でつくる団体が、得意技術や製品を互いに紹介する展示会を開いている。各社の強みや固有技術を共有し直すことで、サプライチェーン（供給網）全体の競争力強化を図る狙い。初めての試みで、豊田合成によると、自動車業界でも珍しい取り組みという。

「軽くて割れない『十年急須』です」。豊田合成の老舗取引先の一社、鈴木化学工業所（愛知県幸田町）はカラフルなプラスチック製急須を出展した。

主力製品は車のエンジン

を冷やす役割の冷却水タンクなどだが、「漏れない」「保温に優れる」など同じ条件が求められる急須づくりに昨年からの取り組み。小幡和史社長は「樹脂加工の技術と知見を既存領域以外に生かす可能性を示したい」と話す。

会場には、金属部品加工会社がキャンプ用品を、金型メーカーがゴルフクラブを展示した例も。電気自動車（EV）向けの試作部品を並べ、豊田合成に事業拡大を提案する会社もあった。主催したのは豊田合成の取引先企業六十九社でつく

る「協和会」。会長を務める近藤製作所（同県蒲郡市）の近藤茂充社長は「これまで豊田合成の要望に応える形で品質を追求し、技術もどちらかといえば各社ごとで隠すものだった。

業界の変革期には、私たちからの発信も重要だと考えた」と説明する。

「勝ち（価値）技展示会」と名付け、開発や設計部門が集まる豊田合成北島技術センター（同県稲沢

市）で八日まで開く。普段は取引先との接点がない豊田合成の役員や社員らも幅広く招き、主力の自動車部品の付加価値アップや新事業に向けたヒントを共に探る考えだ。（安藤孝憲）

## 高齢者の運転 AIが診断

### トヨタ基金・東大など実証実験へ

トヨタ自動車設立したトヨタ・モビリティ基金（東京）は六日、高齢者ドライバーの事故防止のため、ドライブレコーダーの映像を解析して運転を評価する実証実験を十月から愛知県豊田市で始めると発表した。デンソーが新たに開発した人工知能（AI）運転診断システムを活用する。

実証実験では、六十歳以上の参加者がドラレコを四カ月間つけて運転し、映像や位置情報を記録。デンソーのAI運転診断システムでこのデータを分析して運転の総合評価の点数や交通ルールの違反回数や算出すると同時に、自身の危険な運転映像も参加者に提示して今後の事故防止につなげる。

高齢ドライバーによる死亡事故の割合が増していることから基金やデンソー、東京海上日動火災保険、東京大の四者が連携し実施。交通事故ゼロを目指す豊田市の事業の一環に位置付ける。期間は二〇二四年四月までの一年半。市内の三千人が参加する。まずは同市小原地区など四地区の二百人から始める。